

幼児画保育の要点

だいじなところ

林 健造



1 子どもは二枚の絵を描きます。十歳頃を境に、それまでは「知的リアリズム」。後半は十歳以後「視的リアリズム」で、みえたように描く。十歳頃までは、「視えるように」よりは、知っていることを描く絵が主体です。「ママのおなかに赤ちゃんいるの」と赤ちゃんを描くなど。

2 丸(円)、曲線が閉じられた線、結ばれた線、つまり円が描けるようになります。この円が描けるのは人間だけです。この円が何にでも形をよびおこす起点になります。円のイメージ化に、「あ、お顔みたい」「パパの自動車かな」などのことばかけが大事。

3 三歳児頃に描かれる顔(頭)から直接手足がでている「頭足人」を描いたとき、「これ火星人、顔から脚がでている変な絵」などとケチをつけないこと。このときの顔の円は顔だけではなく胴体(からだ)全体を表している円です。犬も猿も描けない人間の創造力の創り出した絵ですからほめてやってください。

次は私が作った詩です（平成九年）。何ごとも「好きだ」という心が出発点です。

好きだから

好きだから

できるだけ そばによって

その子の話をきこうとする。

好きだから

その子が全身で伝える想いを

受けとめてやりたくなる。

できれば その願いをかなえてやりたくなる。

好きだから

この子が こうなるといいなあという

明日の姿まで 思ってみたくなる。

（十文字女学園女子短期大学名誉教授）